

【コラム】感染症対策への協力

「人間の安全保障」の実現へ、各国で技術・資金協力を展開

感染症による健康危機(生命、健康の安全を脅かす事態)、

そして感染症が経済・社会に与える影響への対応は、グローバルな課題です。

特に、世界中に広がる新型コロナウイルスは先進国、開発途上国を問わず大きな脅威となっています。

JICAは「人間の安全保障」を実現するというミッションの下、開発途上国の感染症対策に協力しています。

JICAは個別の感染症への対策のほか、突発的な感染症の発生の際にも対応可能な保健システムの構築に向けて、技術的・資金的な協力を各国で展開しています。

個別の感染症への対応

キリバスのフィラリア症制圧に貢献

キリバスでは蚊によって媒介されるリンパ系フィラリア症の制圧が2019年10月、世界保健機関(WHO)により宣言されました。JICAはフィラリア症の制圧に向け、キリバスを含む大洋州14カ国を対象にボランティア派遣を通じた患者ケアの指導、血液検査キットの提供などを実施してきました。現在、エーザイ株式会社が集団投与のための薬を無償で提供し、コミュニティでの投与をJICAが支援するなど、官民連携による協力も進めています。

アフガニスタンで長年の結核対策支援

JICAは長年、アフガニスタンの結核対策を支援しています。近年は薬剤耐性結核に脆弱な人々への支援に力を入れてきました。結核感染リスクの高い出産後の女性に対する抗結核薬の予防的投与や、職場における結核検診のパイロット事業を通じて患者を発見、治療につなげる取り組みを進めました。



パプアニューギニア：フィラリア対策の一環としての地域住民への集団薬剤投与の様子【写真提供：関原 誠】



2019年度の課題別研修におけるPCR検査実習の様子【写真提供：公益財団法人結核予防会結核研究所】

また、WHOと連携した無償資金協力により、2021年1月から3年分の結核治療薬や検査薬剤の調達を支援する予定です。

感染症の流行を食い止める保健システムの構築

ハード・ソフト両面で支援

突発的な感染症の発生を検知するためには、検査室やサーベイランスの能力強化が重要です。

2019年度は、ナイジェリアとコンゴ民主共和国で検査室整備のための無償資金協力を進めるとともに、検査室の能力向上と感染症サーベイランス強化のための技術協力を開始しました。ハード、ソフト両面からの検査機能強化を推進しています。また、北海道大学や長崎大学とも連携し、感染症の拠点検査室の強化に取り組む6カ国からの留学生の受け入れによる人材育成も支援し

ています。2019年度は新たに6名が来日しました。

さらに、アフリカで流行が続いていたエボラウイルス病に対しても、コンゴ民主共和国やウガンダにおいて、緊急的な研修や物資の支援を行いました。なお、コンゴ民主共和国には2019年8月、国際緊急援助隊感染症対策チームも派遣しています。

ポストコロナを見据え包括的な協力を

2019年度末から新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、人々の健康だけでなく、生活面や経済面にも大きな影響を与えています。JICAは、感染症の発生を未然に防ぎ、発生時に拡大を防止する感染症対策へのこれまでの知見を生かしながら、保健医療分野だけでなく、セクターを超えて包括的な協力を進めていきます。